

事業概要票

事例NO. 32(平成18年度発表)

事例キーワード

周辺景観との融合

事業名		国道道路災害防除事業 国道103号線	周辺景観との融合
事業担当機関		鹿角地域振興局 建設部	
事業期間		平成17年度～平成19年度	
実施場所		鹿角郡小坂町十和田湖地内	
事業概要	全体事業費	315百万円	
	工事概要	ロープネット工3,564㎡ 覆式落石防護網工1,850㎡ 吊式落石防護柵609m	
	事業の目的	国道103号は、青森県十和田市奥入瀬子の口から秋田県大館市に至る幹線道路であり、物資輸送車両のほか観光目的の大型バスや乗用車等が利用する重要な路線である。 近年外輪山の内側で、融雪期や降雨時に道路上の斜面から直径20cmから60cmの落石が度々発生している。 現状のまま放置しておく、落石による交通不能や重大な事故が発生する恐れがあることから、斜面からの落石対策工事を行うものである。	
環境配慮の内容	事業箇所は、国立公園第1種特別保護地区、保安林、特別名勝及び特別天然記念物（十和田湖及び奥入瀬溪流）地域内に位置しており、工事実施においてはさまざまな制約を受ける。 一帯はブナ、ミズナラ、サワグルミ等の森林となっている。 これらのことから、特に環境に配慮した設計が求められ、立木の伐採、土砂の掘削及びコンクリートによる地形改変を伴わない次の工法を選定した。 ①点在する大きい浮き石をワイヤーロープ、金網等で包み込む。（掘削、削岩が生じない） ②ワイヤーロープで覆いきれない小さい浮き石を斜面途中で捕捉する落石防護柵の設置（落下エネルギーが小さいうちに浮き石を捕捉するため、コンパクトな構造となる）。 ③ワイヤーロープと金網を現地の状況に合わせて組み立てる（立木伐採が生じない）。 ④アンカーで基礎を作る（土砂の掘削やコンクリートの使用を避ける）。 ⑤景観に配慮した配色（茶色系）の支柱、ワイヤーロープ及び金網を使用する。		
施工後の状況	①ロープ及び網が周辺景観に融合し、設置した状態が目立たなくすることができた。 ②立木の伐採及び土砂を移動することなく施工することができた。 ③落石の防護機能の確保と環境、景観への配慮ができた。		

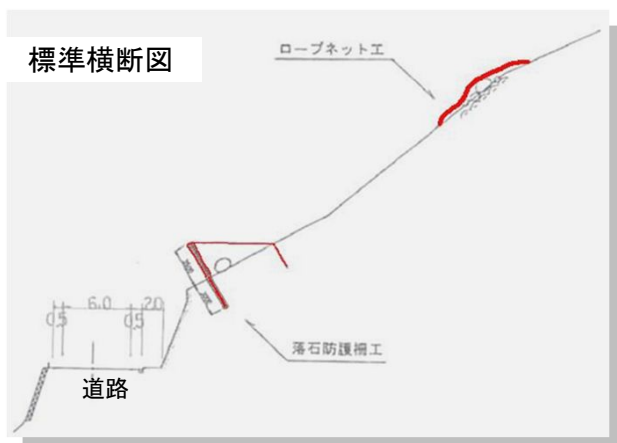


発荷峠展望台から十和田湖を臨む



覆式落石防護網 設置箇所

標準横断面図



吊式落石防護柵 設置箇所